

住民登録

(6月1日現在)

人口・72,448 (+41)

男 34,601

女 37,847

世帯数・21,949 (+18)

()内は前月比



おらほの手作り演劇発表会 ~矢立アトリエ~

「わたしたちの手作り演劇を見てください」——「矢立アトリエ」の演劇発表会が、6月24日矢立公民館で開かれ、大勢の観客の前で熱演しました。

矢立アトリエは、同公民館の婦人学級の皆さんを中心に20人、今年4月から「みつつみかんのお姫様」に取り組みました。練習は週1回、家事や仕事を終えた後の夜8時から、台本の読み合せ、立ちげいこなど夜遅くまで続けられました。演劇についてはまったくの素人とあって

最初は台詞や演技はぎこちなかったものが、30時間にも及ぶ練習でどうにかものになりました。

当日は、会員たちは大勢の観客を前に多少あがり気味、台詞を忘れてカンニングペーパーを見てしゃべる場面や大げさな動作に会場は終始笑いの渦に包まれました。同会の皆さんは「台本と違ったところもあったけど楽しくやれました。これからはもっと勉強していい演劇をお目にかけて」とハリキッテいました。

広報
歳時記

納涼

水銀柱の上昇とともに、クーラーの消費電力が上がり、電力供給がピンチになるというご時



勢なので、納涼などという風流な言葉は忘れられようとしています。

昔の人々は、納涼の行事をいろいろ工夫しました。水辺に出て涼風を求めたり、納涼船を出して楽しんだものです。江戸時代、京都四条河原では、流れの上に腰掛けをしつらえ、そこに座って足を水にひたしたものでした。

そのほかにも、平安貴族が炎暑の候に詩歌の会を催すのも暑さを忘れる行事だったようですし、江戸に流行した夏の夜の怪談や胆だめしも、涼味を味わうためでした。

もっとも、最近では自然回帰が注目されはじめ、森林浴やジョギングでいい汗をかいて夏を乗り切ろうという人も増えました。各地の川開きも盛んになり、東京・隅田川にはエンジン付きながら屋形船も復活しました。

今月の主な行事

1日・全県母親大会 (鳳鳴高校)

・愛の血液助け合い運動 (文化会館)

8日・市民寄席 (文化会館)

21日・勤労青少年の日

22日・インターハイ水球東北ブロック大会 (大館工業高校)